

古後もさざれん候をあ
候ぢ除そは居れま
ゆかまほるる候を申すが
う歳年又、家を守り叶
百口年也。わきかみか生
きるはくは生四限了
れらもやせうみかく白せ天
めに死ぬてあらば被中
死ぬたる者とあらうと
草木は死往を取れたら
えはされしとあらうと
あまの身相をみる皆
信ほよお侍めを奉
上主をへぬけりうじて古
事一言承るを入
三毛

不居手

原

ひやうちもさきなりかはりふよ

御やかたぢく様子は防障ひよなく

手戻考うめ御ち齡かみまご
山御了義へは祝い酒の年

うも次下移すおとす馬鞍重山の

まくらよし思ひぞれえと、草

詔通り今可もままで日を被り

たう遠意計きひ早速工

着至候は後脱儀高く也機

燭向いの状善とぞ首の如文

上から十日上荀とて病床下

坐す今ま不起居本末ま

まくせきのけ打過きゆき

身の申り

ちうかしき

身の申り

御叔母様

佐賀縣佐賀市赤松町西堀端
石丸勝一殿

緊急報復



大東麻加正麻布立山川也三
馬渡多々藏